

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	消防署敷地内で、組み立て式可搬ポンプ用水槽解体作業中に発生した事故。
3. 体験した事例の中心的要素	組み立て式可搬ポンプ用水槽解体作業中に、水槽枠として使用していたコンパネ2枚を外し、重ねて地面に置いた。そこから約10m離れたところで別の作業を実施していたところ突風が吹き、地面に置いていたコンパネ1枚が飛ばされ、私自身の背部左側に当たり受傷、左第3、4、5腰椎横突起を骨折した。発生場所は、消防団訓練用敷地内で広さが25m×40m、同敷地内にはこの水槽以外に物品等無い状態。
4. 体験した事例の原因・理由	事故のあった日は、8時45分から勤務に就く。●●地方気象台発表の過去の気象データによると、9時の平均風速が10.3(m/s)、10時の平均風速が12.6(m/s)で、受傷した11時頃になると、17.6(m/s)を記録している。気象庁でも「やや強い風」との基準である。受傷前まで、風の影響で体が飛ばされるようなことはなかった。受傷する直前に突風が吹き、それにより目の中にゴミが入ってコンパネを置いている方を背にした後に受傷したことから突風が吹いたことが原因と考える。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年11月4日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：消防団訓練用敷地内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	飛来・落下ぶつにぶつかる
7. 事例体験時の活動	その他:訓練で使用した資器材の撤収
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	その他：訓練で使用した資器材の撤収
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[36]歳、勤続年数[16]年、現場経験年数[16] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員、機関員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	副訓練塔内で大型車両のタイヤ交換を実施	
経過2	当事者A	消防団訓練用敷地内にある、組み立て式可搬ポンプ用水槽の解体作業	
経過3	当事者A	片付け作業中に受傷	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 :事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。周囲の視界が確保できていなかった。 たまたま、事故になった。 その他 :たまたま突風が吹いたため

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

突風により、目の中にゴミが入って完全に視界がなくなったため。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

発生場所見取図

